



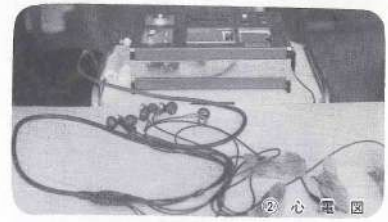
広報みまた



豊作と

祈った

'755



▲今日も薬の調合に忙しい薬剤師さん。

◀入院患者さんの早期回復を願って今日も一生懸命調理に精だす栄養士さんたち。

近代的な医療 町民の

施設のもとに 健康増進をめざして

職場紹介

……その一……

今回より町民の皆さんに三股町の行政の第一線で活躍している、それぞれの職場を順を追って紹介して見たいと思います。

今年度は先ず最初に新築後四年目を迎えた町立病院の近況を紹介いたします。

現在医師は内科、外科の先生が一人づつおり、院長は国立都城病院より赴任されてきた森実彦先生で内科を担当されています。

外科は四月一日付で鹿兒島医大より赴任されてきた泊直十郎先生が担当され副院長として勤務されることになりました。

泊先生は鹿兒島大学医学部第一外科医局と長期の医師派遣契約が成立したことによって記念すべき第一回目の医師として着任されたものです。

先生の専門は消化器関係です。当町には消化器関係の疾患が多いのではないかと考えられますので泊先生の赴任は私達町民にとって大いなる福音ではないでしょうか。

又、鹿大医学部第一外科医局との契約が成立したことは今後、町民の健康増進、管理に大きな前進をみたといっても過言ではないでしょう。

次にそれぞれのセクションを写真で説明することにします。

① 先ず「受付会計係」です、受付の施設は患者

さんの容体が一目で分かるようにガラス張りとなっています。ここでは病状によって各科へ親切に導きます。

② これは患者の病状によりその原因をよりの確にキャッチするためのフック式電図です。

③ 「検査室」の様子です。ここでは各種多様の病原体を究明し、適切な処置をするため精密な検査を実施しています。

④ 「ユニメーター」といわれるもので成人病、老人病の検査に必要な器械で二十二種類の多くの検査機能をもつ優れた器材です。

⑤ 次に普通「レントゲン」と呼ばれているものはこれは遠隔操作で診断ができる放射線でテレビカメラ付の透視台が設備されています。

⑥ 「レントゲン」で病巣が判明しますと更にその病巣を究明するため「胃カメラ」(内視鏡)があります。

⑦ その他、治療の部では紫外線低周波治療器、牽引器等の器材が処置室に設置されています。

⑧ これは患者さんが気楽に順番を待つことができるようにテレビや週刊誌等がおいでであります。

⑨ 次に「薬局」です。ここでは医師の処方箋にもとづいて薬が調合され患者さんに渡されます。

⑩ 入院患者にとつて何よりも大切なことは医療面での治療も大事ですがその次に重要なことは食事療養であると思えます。この食事を担当するのが栄養士です。

調理室では栄養士の指導のもとに患者さんが一日でも早く退院できるように、食事療法を積極的に進め健康の回復を早めるのだという重要な使命のもとに一生懸命がんばっています。以上、病院の施設等の大まかに見学してきましたが、私達、町民の健康管理という重要な仕事に精一杯がんばっておられる姿が随所に見られました。

今後とも全職員が健康しく町民の皆さんに奉仕できることを切望しています。

又、町民の皆さんの職員に対する愛着を願ひまして第一回の職場紹介を終わります。

住民の理解と協力のもとに

調和ある発展と福祉の充実を図る



三月定例議会は三月十二日から三月二十八日まで開かれ、先ず冒頭に町長より私達の生活に直結する昭和50年度の施政方針が述べられました。

席上、田中町長は「一昨年の石油危機により資源問題等が起こり低成長時代への移行が余儀なくされておりました。今後は福祉施設の重視とその質的充実の時代へと転換し、豊かな地域社会の実現をめざし、国県の動向をいち早く察知しながらより効率的な財政運用を図り、町民がよりよい環境のもとに協力しあっていく場を作りたい」と述べた。次のような重点施策を明らかにしました。

◆ 生きがいのある福祉の充実

本町は福祉施設の整備には特に努力を重ねてきているところで、本年度は児童健全育成のために、児童館、プールの建設をそれぞれ一方所づつ計画しております。

老人福祉の施策としては、本町においては昨年から八十歳以上の老人者を対象として敬老年金制度を設定しています。本年度はこの年金を増額すると共に満百歳以上の方に特別敬老年金制度を設け老令者に対する福祉の増進に努めます。

又、老人人口は年々増加していることは周知のとおりです。老人がもつ可能性、社会性を認識し老人に相応した考える能力を開発していくことが理解と愛情のある人間関係をつくりあげてゆくものと考へております。

そして、病気の早期発見、早期治療を施し常に健康を保持しいつまでも生甲斐を感じさせる福祉行政を進めたいと思っております。

◆ 明るい環境づくりと農畜産の振興

町民のすべてが健康で明るい生活のできる社会環境を建設するために日夜努力が続けられております。

また、高度経済成長は考えられなく、国の総需要抑制と相まって努力を重ねていくところであります。

困においては飼料対策価格支持制度等の対策が講ぜられているところですが本町においては畜産センターの整備、家畜導入事業及び資質改良等を統括して実施し積極的に推進すると共に畜産環境保全と併せて畜産経営の育成に努力していききたいと思っております。

【畜産の振興】

食糧自給確保が叫ばれる反面、稲作転換事業を推進していかなければならない矛盾、価格低下に起因しながら規模拡大による所得の向上をめざしながら飼料の暴騰にあえぐ等、経済の不況とインフレは深刻な問題をかかえます。ますますきびしい困難な道を开拓していかなければならない重大な時期に直面している苦しい農政であると思っております。

このような状況の中で農業振興は農道の整備保全事業により基盤の整備を行い土地の高度利用を図り畜産の振興を主軸に稲作、養蚕、茶、みかん、そば、園芸等の育成を図っていく所存であります。

稲作・上米等級米の産出に努めながら園の方針に従い稲作転換事業を推進していきます。

そ菜・畑作振興の一環として組織づくりと産地の確立に努力します。

ミカン・生産組織を強化し技術の向上、貯蔵上の管理に努力して品質の向上に努めます。

茶・生産組織の強化を図り生産コストの引下げながら上質茶の生産に努めます。

地籍調査・本年度からの新しい事業です。これは既存の地籍図、地籍簿は明治年間作成されたものです。で現実にはすぐわかない点がありますのでこれを修正するために実施するものです。

◆ 豊かな知性と教育文化の向上

教育の振興については他町村に先がけて施設の整備を行って来たところですが、

一部施設の老朽化がめだってきている現状でありますので今後逐次整備し生徒の安全教育に努めます。又、給食センター施設の整備も行うこととしております。

社会教育については第二地区公民館の建設を計画しております。この建設が完了いたしますと各地区に公民館が建設されたことになり地区住民の教養と知識の高揚の場として大いに利用していただく町政の振興に役立たせてもらいたいと思念する次第であります。

ことしの重点施策

ことしの重点施策

三股町心身障害児童扶養手当支給条例

心身障害児童に対し昭和三十九年四月より特別児童扶養手当法が立法された現に至っております。これは重度の障害児童を対象としたものでした。本町においては中程度の障害児童に対しても、昭和四十四年より条例化された町単独事業として施行されています。今までは月額二千円づつ支給されていましたが今回三千円づつ支給されるようになりました。

三股町名誉町民条例

社会福祉の増進、産業教育文化の進展又は公共の事業に偉大な貢献をしその功績が顕著である方に對して「名誉町民」の称号を送られます。

「名誉町民」の称号を送られた方に年金を支給していますがこの年金額が十万円から十五万円に改正されました。

三股町敬老年金支給条例

この条例は三股町に居住する八十歳以上百歳未満の高令者に対し敬老の意を表するため年金が支給されます。

この年金額が今回、三千円から五千円に改正されました。

三股町消防団条例

緊急災害時に対する出動、又は訓練等の手当が五百円から六百円引き上げられました。

三股町水道条例

水道料金が四月分検針時点以降(五月分)から改定されるもので六ペーシを参照してください。

職員の特種勤務手当に関する条例

職務遂行上、極めて危険な環境の中で職務、あるいは職務の内容が高度の特殊技術を必要とする場合、これ等の職種に就いてそれぞれ手当が支給されています。

議会議員の報酬及び費用弁償等に関する条例

特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例

三股町使用料及び手数料徴収条例

三股町管住宅の設置及び管理に関する条例



泰平一家



暖かくなると、出かける機会もふえてきます。空巣やコソ泥にとってもチャンス到来。ちょっとした気のゆるみが犯行を助けてしまうものです。空巣の侵入口は玄関からが主で六〇％を占めています。この機会にもう一度玄関の周囲をチェックしてみましょう。

空巣による被害はカギのかけ忘れは論外としても「いくらカギがかかってもこじあけられてしまう」というのが約四割近くもあるそうです。

ドアのすき間にドライバーや針金をさし込んでこじあけたり、ドアそのものを壊してしまったりするのです。

防犯の基本のひとつとして考えなければいけないのが「ワンド

ア、ツーロック」と呼ばれるもので、ひとつのドアにふたつのカギを取付ける方法です。

これは、空巣にとっては、大変有効なものではないでしょうか。しかし、この方法も取付方次第では効果のない場合があります。いくら、ふたつのカギをつけてもカギそのものが簡単なものだったり、ドアがガタついたりしていたら意味がなくなります。ドア、メーカの話では「最も普及しているが実は最も開きやすいカギ」それは、内側からポツチを押し附める「円筒錠」と呼ばれるもので、三〇秒もあれば壊されてしまいます。

ワンドア、ツーロックの効果をおげるために次の様なことに注意

してカギを取り付けてください。

主錠には、鋼鉄製のがんじょうなもので、補助錠は頭の高きにつけるのがコツです。こじあけるにしても姿勢が不自然な格好になるので犯行を見破りやすいという点で効果を発揮するというものです。又、防犯の決め手となるものとして「ドア」そのものがあります。

◎合板ドアは価格も安く施行しやすい利点ある反面水や日光に弱くそりやすいという欠点があります。構造は合板を両側から張り合わせているだけなので、ドリルで簡単に穴をあけられたりするだけで壊されてしまいます。

金属ドアは防犯、防火の面で万全ですが、価格も高く、重すぎ取扱いに不便を感じたり、切っさり、削ったりしにくいので取り付けの自由がきかない等の欠点があります。

こうして考えてくると玄関のまわりにも、いろいろな注意ポイントがあることが分かります。

そして、カギ、取っ手、等を別々に選ぶのではなく「安全性」と「耐久性」を真剣に考えて選ぶようにしたいものです。

お出かけは
一声かけて
カギかけて

鯉のぼりによる
感電事故を防止しよう

◎鯉のぼりが電線に引っかかるおそれのある場所に設置しないでください。

◎鯉のぼりのポールをたてる時、たおす時は電線にさわらないように注意してください。

◎もし、鯉のぼりが電線または電柱に引っかかった場合は、危険ですから自分で昇ったり、物干しざおなどで取りはずさないですぐもよりの九州電力営業所へ連絡してください。

空巣にねらわれています

第七地区PTAでは去る三月九日、卒業生のお別れ会で、在校生を助ます意味で親子駅伝大会が行われました。お父さん、お母さんは日頃の運動不足を解消しようとして子供たちと一緒に、お互いに声援を送りながら一生懸命にがんばっていました。

この行事は今後も毎年続け、恒例の行事にして、皆で楽しめるものにと熱望していました。又、これを契機として親子会結成の機運も盛りあがっていました。

親子駅伝大会

第七地区PTAでは去る三月九日、卒業生のお別れ会で、在校生を助ます意味で親子駅伝大会が行われました。お父さん、お母さんは日頃の運動不足を解消しようとして子供たちと一緒に、お互いに声援を送りながら一生懸命にがんばっていました。

この行事は今後も毎年続け、恒例の行事にして、皆で楽しめるものにと熱望していました。又、これを契機として親子会結成の機運も盛りあがっていました。

学校林を緑にしよう

梶山小学校

梶山の細目にある校有林(三、〇〇〇㎡)に梶山小学校の児童一二〇名が杉の苗木を植えました。

これは緑の週間にちなんだもので同校では小島の果樹かけと、ともに毎年実施しているものです。

子供達は父兄に付添われて先生達と一緒に山に登り、雑草等の下刈された後に、大きく育って葉晴らし自然が生まれるようにと願いをこめて小さな手で一生懸命に杉の苗木を植えていました。

その後、子供達は自分達で作った果樹箱を木に登ってかけ、楽しい一日を過ごしました。



この巣箱に小鳥が住んでくれることを祈って



先生達と一緒に杉の苗木を植える子供たち



歌で別れを告げる長田小学校の卒業生たち



お父さんお母さんの声援に「がんばって、ゴール」

卒業式

長田小学校

町内にある五校の小学校では去る三月二五日に一斉に卒業式が行われました。

今年の卒業生は三股小学校で一五二名、勝岡小学校で三七名、梶山小学校で一五名、宮村小学校で二八名、長田小学校で一三名、計二四五名(男一三〇名、女一一五名)が卒業し本校の最東部にある長田小学校においても男子一一名、女子二名の一三名の卒業式が行われました。

音楽の流れるなか卒業生が入場し、それを在校生が拍手で迎えて国歌斉唱のあと一人づつ名前が呼ばれて卒業証書が授与されました。それを見守る父兄の目はじつと過ぎ去った六年間を思い起こして立っているように、その目標に向かって努力をしないといけない」と激励を受けて晴れやかに中学生となる希望と夢を胸いっぱいにくらませて学び舎を後にした。

郷土の歴史

三股町宮村の高畑から、高畑川に沿ってワニ塚山系に入ると、鉄肥との境界に牛の峠(八八九m)があります。その昔、藩政時代、鉄肥藩と島津藩を結ぶ唯一の通路であったのがこの牛の峠です。

今、この峠を訪れてみると、この峠の一角に、これより東鉄肥領(写真参照)と書いた大きな石碑が建っています。

牛の峠の境界争い

この境界線が、たびたび、島津、鉄肥藩によって争われました。山の稜線が境界であるのが自然であるが、現場の実情をみると、なかなか簡単にはいかず争いに発展したのではないかと想像されます。

次の物語はこの境界争いを題材としたもので寛永三年(一六二七年)十一月、都城でのできごとです。

ここは都城、本町のある一軒の旅館はたごのことです。

外は初冬には早い霧島おろしが吹きすさんでいます。その中に鉄肥よりの使者の馬四頭が数刻つないだままになっっています。

今、この旅館の一室では鉄肥藩より

の使者四人と島津藩、本家からの使者三人、地元都城の家老職二人の侍が冷えきった部屋の中で向かいあつて火鉢で暖をとりながら、声高に談判をしています。

島津領と鉄肥領との境をどこにするのか、真剣に話し合いを進めていますがいっこうに進展しないのです。お互い自分の藩の主張を曲げずに相対立したままなのです。

鉄肥藩は自分達の言い分を聴かなかつたら、いずれ將軍家に訴えて、あわを吹かしてやろうと考えていました。そこで鉄肥藩の使者は「吾々は幕府の恩恵の厚い譜代大名だ、島津は外様大名ではないか」と言ったのです。

これに対して島津藩は「もうこれ位であきらめて帰つたらどうか、ワッドミ、マクイモンカ(おまえたちに負けるものか)」と反論し「吾れ吾れは、都城みやこのじょうん士では解決しきれないので、わざわざ本家からきたのだ」と言ったのです。

なお、それでも決着はつかず時間もたち太陽は西に沈みはじめました。

島津の使者は「今日でもう六日目になる、今回は解決もつきそうにないのでこのままで帰る」と言つて立ちあがったのです。

普通、境界は山の稜線りやうせんなのですが、それにして境界線の決め方のむずかしいこと……。

— 教委 たてやましげはる —



表紙説明

この写真は勝岡部落において撮影したものです。

私達の祖先は昔より自然のあらゆる物を崇拜してきました。

三股町には各所で「田の神様」と呼ばれる石像を見ることが出来ます。

この石像は過去、何百年か農民の喜怒哀楽をみてきたことでしょう。一般的に豊作を祈る対象として考えられています。一年に一度風雨に汚れたアカを落して、口紅やホホ紅をぬって化粧をしてやります。素朴な農民の願いがこめられているのではないのでしょうか。

三股町の人口

昭和50年4月1日現在

男	7,403人	出生	30人
女	8,295	死亡	15
計	15,698		
世帯数	4,594戸		

